

## 令和4年度 竹田教育事務所 第2回学校訪問まとめ

令和4年12月19日

### 【目的等】

目的	学校訪問確認シート、目標達成マネジメントツールを活用した検証・改善の状況、「新大分スタンダード」に基づく授業改善、その他学校が抱えている課題について協議を行うとともに、解決のために必要な指導・支援を行う。
期間	令和4年10月14日（金）～12月2日（金）

### 1. 「学校マネジメント4つの観点」における事務所評価

観点	S	A	B	A以上の割合
I 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有	26	9	0	100%
II 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施	26	9	0	100%
III 主任等が効果的に機能する学校運営体制	25	10	0	100%
IV 学校・家庭・地域による目標の協働達成	15	20	0	100%

### 2. 「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化 【数値は学校自己評価】

#### 観点I 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有 (Plan)

① 「学校評価の4点セット」において、育成を目指す資質・能力は児童生徒の実態及び課題をふまえた上で設定されている。	35/35
② 学校の教育目標と重点目標は、児童生徒の実態を捉え、連携・協働する保護者や地域の方が見ても育成を目指す資質・能力が明確なものとして、保護者や地域と共有できている。	35/35
③ 「学校評価の4点セット」の策定プロセスでは、管理職の下、主任等を中心に、それぞれの重点目標の達成に関わる全教職員が関与できている、その内容が共通理解されている。	35/35
④ 「学校評価の4点セット」において、重点的取組、取組指標が、重点目標の達成に近づくため有効かつ妥当なもの（整合性のあるもの）になっている。	35/35
⑤ 「学校評価の4点セット」において、達成指標は学校の教育目標と重点目標の達成状況をより的確に把握できる（より客観的な）ものとなっている。	35/35

- ・ 1学期末の検証・改善や2学期計画の策定をする際において、主任を中心にPT会議等で指標の検討をすることで全教職員の共通理解が深まっている。
- ・ PTA、学校運営協議会の場において、家庭・地域との共有が行われており、家庭・地域の考えや思いが反映された指標や取組の設定が進められている。
- ・ 育成を目指す資質・能力や重点目標（達成指標）との整合性がより図られるように見直しや検討を引続きしていく必要がある。

観点Ⅱ 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施 (Check・Action)

① 学校評価の4点セットの検証・改善サイクルの回数			
学期1回	13	学期2回	14
		月1回	8
			その他 0
② 上記以外で、取組によってはさらに短いサイクルで検証・改善を行う。			32/35
③ 上記の検証・改善の結果が、教育課程、「学校評価の4点セット」に反映されている。			35/35
④ 検証・改善は「検証・改善プロセス(プラン冊子p41)」に沿って効果的に行われている。			35/35
⑤ 学校評価の4点セットの検証・改善は、教務主任をはじめ、重点目標の達成に関わる主任等が主体的に関わりながら、全職員体制で行っている。			35/35
⑥ 家庭や地域が行う取組(指標)については、学校運営協議会等で熟議するなど、それぞれが主体的に検証・改善できる体制ができている。			35/35

- ・学期に複数回の検証改善を行う学校が増え、検証・改善結果を学校評価の4点セットに反映している。
- ・各種調査や単元テスト・アンケート結果等を用い、短期の検証・改善を行う際の視点が整理されている。
- ・「検証・改善フロー」に沿って、達成状況の確認や指標等の妥当性の検証を継続していく必要がある。

観点Ⅲ 主任等が効果的に機能する学校運営体制

(ミドル・アップダウン・マネジメント、効果的・効率的なチーム体制の構築)

① 主任等は、目標達成に向けて組織的な取組が行われるよう、その分掌に所属する他の教職員の目標設定や年度途中の進捗管理に関わることができている。	35/35
② 主任等は、目標達成に向けて組織的な取組が行われるよう、その分掌に所属する他の教職員の目標設定や年度途中の進捗管理に関わることができている。(指導・助言が果たされている)	33/35
③ 会議・分掌・行事等の見直しを行うことで学校運営の効率化が図られ、その成果を感じられるものがある。	35/35
④ 養護教諭・栄養教諭、学校事務職員等の少数職種の教職員、SC・SSW・SLや部活動指導員等の専門スタッフ等がその専門性を発揮する必要な体制整備ができている。	35/35
⑤ 各種校内委員会やケース会議に少数職種の教職員や専門スタッフが定期的に参加でき、必要十分な情報を日常的に共有する環境が整備できている。	34/35

- ・目標達成に向けた主任等の役割・責任の理解と実践意欲の向上がみられ、学校組織を活用して進捗管理が行われている。
- ・新型コロナウイルス禍の経験を踏まえた行事や集会等の精選、見直しが行われている。
- ・主任等による縦の連携と横の連携の一層の推進や取組の進捗管理等での指導・助言が求められる。

観点Ⅳ 学校・家庭・地域による目標の協働達成 (目標協働達成)

① 学校の教育目標と重点目標、目標達成に向けて学校・家庭・地域が役割分担して取り組む内容について共有し、熟議するために、協議の持ち方を工夫している。	35/35
② 学校運営協議会等において出された家庭・地域からの意見・要望が「学校評価の4点セット」に反映されている。	35/35
③ 学校・教師が担ってきた業務のうち、代表的な14の業務の在り方に関する考え方を踏まえて、学校・家庭・地域の役割分担が明確にできている取組がある。	29/35

④	目標達成に向けて、学校運営協議会に推進部会等を設置し、その部会ごとに話し合いや協議する場を設けている。	35/35								
⑤	地域学校協働活動推進員等、「協育」ネットワーク関係者が学校運営協議会委員として参画している。	34/35								
⑥	学校運営協議会の年間の実施数									
	年に3回	17	年に4回	2	年に5回	0	年に6回	16	年に7回	0

- ・全小中学校の学校運営協議会内に推進部会が設置され、教育目標や実態、「学校評価の4点セット」の共有がなされている。
- ・推進部会を目標協働達成に向けたチームとして実動させることで、協働意識の向上を図ってもらいたい。
- ・学校運営協議会における熟議の場を工夫し学校・家庭・地域の役割分担をより明確にしていく必要がある。

### 3. 学校における働き方改革の推進 【数値は学校自己評価】(②のみ協議・聞き取り分を記載)

①	働き方改革に資する1年単位の变形労働時間制の活用を見据えて、管理職は、校務用パソコンの使用状況等により教職員の勤務時間を客観的に把握・分析等を行っている。	35/35
②	「1改善運動」(第3ステージプラン冊子p43)の年次計画を作成している。	29/35
③	ICTを活用した業務改善ができています。(計画している。)	35/35

- ・年次計画で業務改善を進める「1改善運動」の実施が進められている。
- ・在校等時間の縮減に向けた働き方改革の推進やICTを活用した業務改善を引続き行う必要がある。

### 4. マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進 【数値は学校自己評価】

#### 【小学校】

①	来年度に向けて、中学校と重点目標、重点的取組、及び各指標の摺り合わせを行った上で「学校評価の4点セット」等のマネジメントツール及び教育課程の編成をしていく予定である。	20/22
②	連携する幼稚園・保育所・認定こども園と「学校評価の4点セット」を共有している。(する予定である。)	20/22
③	実施したスタートカリキュラムについて見直しを済ませた。(来年度にむけて)	19/22

#### 【中学校】

①	来年度に向けて、小学校と重点目標、重点的取組、及び各指標の摺り合わせを行った上で「学校評価の4点セット」等のマネジメントツール及び教育課程の編成をしていく予定である。	12/13
②	連携する小学校と「学校評価の4点セット」を共有している。	13/13
③	中1ギャップに対応した特別なカリキュラム等について、実施したものを見直しを済ませた。(来年度に向けて)	11/13

- ・連携する小学校と中学校において「学校評価の4点セット」の共有が進められている。
- ・連携する幼稚園・保育園・保育所・認定こども園と「学校評価の4点セット」を共有する等、幼児教育との円滑な接続に繋げていく必要がある。

5. 小・中学校で進める授業改善の徹底 【数値は学校自己評価】

① 学校の教育目標の下、各教科等の単元の学習内容や学習活動、学校行事計画等を相互に結び付けるなど、教科等横断的な視点で教育課程の編成を行い、実施にあたっては、教科横断的な単元配列表を活用している。	35/35
② 「新大分スタンダード」に基づいた授業を、単元（題材）のまとまりを見通して1単位時間の「ねらい」や評価規準の適切さ等を確認しながら実施できている。	35/35
③ 毎時間の授業において、視点やポイントを意識した「振り返り」を設定している。	35/35
④ 教科の専門性に基づく指導方法の工夫改善により、授業の質の向上を図るため、高学年学級担任の交換授業等を実施している。【小学校】 校内（近隣校との）教科部会を定期的で開催している。【中学校】	小 18/22 中 13/13
⑤ GIGA スクール構想の実現に向けてICTを効果的に活用するための研修を実施している。（予定である）	35/35

- ・主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、新大分スタンダードを意識した単元構想による授業改善を継続して行う。
- ・小学校において、教科担任制を活かし教科の専門性に基づく指導方法の工夫改善が進められている。教科の専門性に基づく指導方法の工夫改善により授業の質の向上を図るため、高学年学級担任の交換授業を検討する必要がある。

6. 「中学校学力向上対策3つの提言」の取組状況等について 【数値は学校自己評価】

① 生徒による授業評価が計画的に行われ、「学校評価の4点セット」及び授業改善の検証・改善に反映させている。	13/13
② 教職員が目指す授業像（学力向上プラン、4点セット等に記載の内容）を生徒と共有している。	13/13
③ 学習集団としての目標（学習目標）の設定や振り返りが計画に基づいて行われている。	13/13
④ 学校規模に応じた教科指導力の向上（校内、近隣校との連携）を計画的に行っている。	13/13

- ・目指す授業像を教員と生徒が共有し、学習集団としての目標や振り返りが計画的に取り組まれている。
- ・主体的・対話的で深い学びを目標とする学習集団の育成と生徒による授業評価の質の向上を図り、生徒と共に創る授業づくりを推進していく必要がある。

7. 特別支援教育の視点からの授業改善（「個別の指導計画」作成率向上の取組）【数値は学校自己評価】

① 「個別の指導計画」について、検証・改善、見直し等の頻度（予定）。									
年に1回	0	学期に1回	34	学期に2回	1	月に1回	0	その他	0
② 2回目（以降）の「個別の指導計画」推進教員の活用を検討している。									35/35

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に「個別の指導計画」の作成・活用・改善が進められている。
- ・「個別の指導計画」の作成・活用・改善を図るため、「個別の指導計画」推進教員の継続的な活用を行う必要がある。

## 8. 運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進 【数値は学校自己評価】

① 運動の楽しさを味わわせるために、「新大分スタンダード」に基づいた「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりに向けた取組を進めている。						35/35
② 「1校1実践」等の取組内容の充実を学校全体で組織的に推進している。						35/35
③ DE（低体力）層への支援を実施（予定）できている。						35/35
④ 体力運動能力調査（課題のある項目のみの実施を含む）の実施回数（予定）	年間1回	0	年間2回	30	年間3回以上	5

- ・運動の習慣化・日常化に向け、「1校1実践」の取組が進められている。
- ・全小中学校において体力運動能力調査（課題のある項目のみの実施を含む）を2回以上実施できている。
- ・「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりに向け、引続き、小学校体育専科教員や中学校体育推進教員の優れた取組を取り入れていく必要がある。

## 9. 健康課題への対応 【数値は学校自己評価】

① むし歯予防対策については、養護教諭、栄養教諭が連携しながら、歯みがき指導、食に関する指導、フッ化物の活用の三本柱と生活改善指導を学校保健計画に位置付け、組織的に取り組んでいる。	35/35
② むし歯予防対策と合わせて、むし歯のある児童・生徒については保護者に対して治療の呼びかけを行っている。	35/35

- ・養護教諭や栄養教諭が連携し、規則正しい生活習慣の確立等に取り組んでいる。
- ・むし歯予防については、3本柱（歯みがき指導・食に関する指導・フッ化物の活用）を組織的、継続的に行う必要がある。

## 10. いじめ・不登校対策等の推進 【数値は学校自己評価】

① 「児童生徒支援シート（市教育委員会の指定した様式を含む）」を校種間で引継ぎしている。（する予定である）（小学校→中学校、中学校→高等学校等）	33/35
② 短時間で継続的に行う人間関係プログラム等を活用した「居場所」や「絆」を意識した学級づくりに学校全体で組織的に取り組んでいる。	35/35
③ SC、SSW、SL等の校内委員会への参加や研修活用が実施できている。	35/35

- ・短時間で継続的に行う人間関係づくりプログラム（週1回程度）の取組が進められている。
- ・教育相談コーディネーターを中心に専門スタッフや関係機関等との日常的な情報共有を行うとともに、「児童生徒支援シート」をさらに活用していく必要がある。